

## 「年月日」の修正

- ②の[SELECT]ボタンを押して、年月日表示のうち修正したい数字を点滅させます。
- ③の[ADJUST]ボタンを押して、データを合わせます。
- 修正後は、②の[SELECT]ボタンを押して、点滅を止めます。

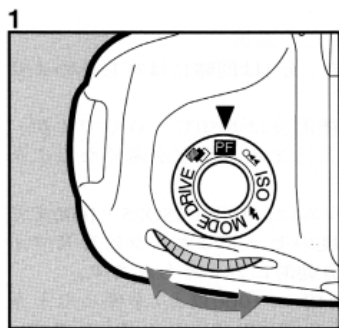
## 「日時：分」の修正

- ②の[SELECT]ボタンを押し、時・分・「:」表示のうち修正したい数字[秒の場合は:]を点滅させます。
- ③の[ADJUST]ボタンを押して、数字を合わせます。
- 秒「:」を合わせるには、③の[ADJUST]ボタンを、時報などに合わせて押すと0秒になります。
- 修正後は、②の[SELECT]ボタンを押して、点滅を止めます。

## クォーツデイト使用上の注意

- \* 「年月日」と「日時：分」は同時には写し込めません。
- \* デートの使用可能温度は約50℃～0℃ですが、低温下では、写し込まれる文字が薄くなることがあります。
- \* 使用できるフィルムは、感度がISO25～1600までのものです。感度のセットはカメラにDXフィルムを入れると自動的に合わせられます。
- \* 高感度フィルム(ISO 1000以上)を使ったときは、写し込まれる文字がにじむことがあります。
- \* ISO 50以下のフィルムは、フィルムにより写し込まれる文字が薄くなることがあります。
- \* 修正途中(点滅表示中)は、シャッターを切ってもデータは写し込まれません。
- \* パノラマ撮影モードでは、デートを写し込み可能な状態にしても、デートは写し込まれません。
- \* クォーツデイトは、3Vリチウム電池 CR2025 を使用しています。  
電池の寿命は約3年です。写真のデータが薄くなってきたり、写らなくなったときは、最寄りのペンタックスサービスセンターで新しい電池と交換してください。(有料)

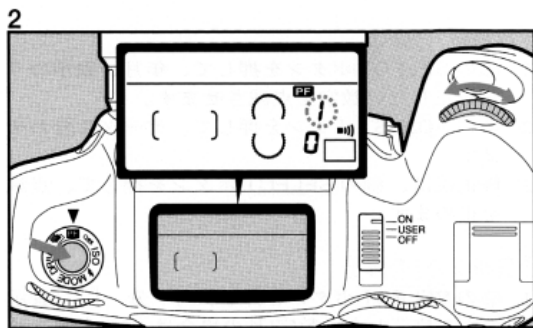
## (15) ペンタックスファンクション



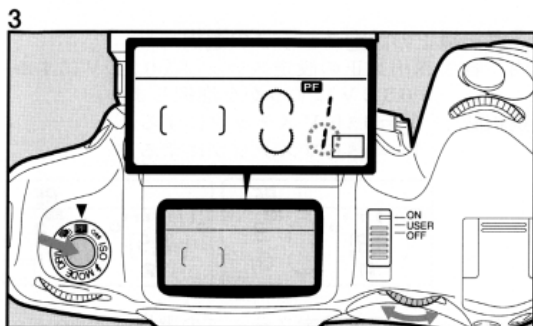
Z-1 Pには、使用目的に合わせてユーザー自身がカメラの機能を選択できる、15項目からなるペンタックスファンクション機能があります。

ペンタックスファンクションの設定方法

1. モードダイヤルを [Fn] に合わせます。

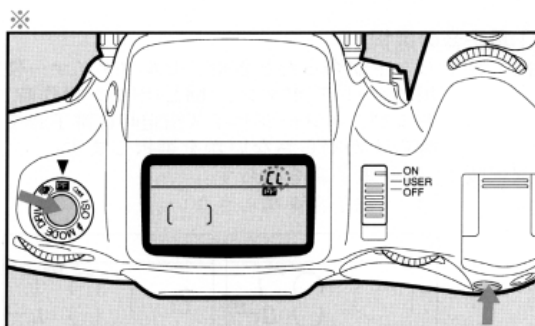


2. モードセットボタンを押したままTvダイレクトダイヤルを回して設定したいファンクションナンバーを選択してください。



3. モードセットボタンを押したままA v ダイレクトダイヤルを回して、ファンクションの内容を選択してください。

- \* ファンクションの内容は、数字の「0」・「1」などを選択する方式になっています。詳しくは、各ファンクションナンバーの説明をご覧ください。
- \* 工場出荷時は、ファンクション内容がすべて(0)になっています。



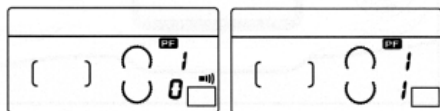
※ ペンタックスファンクションをクリアします。  
電源スイッチをONに、モードダイヤルをPFボタンを押したままIFボタンを約2秒間押し続けると、表示パネルにCLが表示されてペンタックスファンクションの設定がクリアされます。このとき「ビビッ」と電子音が鳴ります。

応用的な使い方

### ①電子音の選択

内容：ピントが合ったときや、セルフタイマー使用時、IFボタン、MLボタン操作時および、イメージサイズ指定時に電子音を鳴らすか鳴らさないかを選択します。

選択肢：0 = 電子音を鳴らす。  
1 = 電子音を鳴らさない。

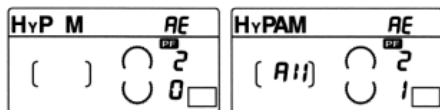


### ②露出モードの選択

内容：電源スイッチがONのときに使用できる露出モードを選択します。

選択肢：0 = 絞りがA位置ではハイパープログラムとハイパーマニュアル、絞りがA位置以外では絞り優先自動露出とハイパーマニュアルのみ使用できます。

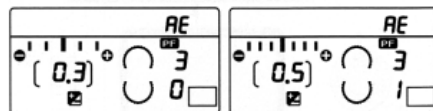
1 = 全ての露出モードが使用できます。



### ③露出補正の設定ステップの選択

内容：露出補正の設定ステップを0.3EVにするか0.5EVにするかを選択します。

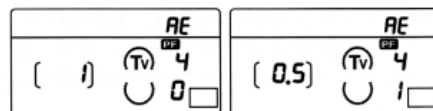
選択肢：0 = 0.3EVステップにする。  
1 = 0.5EVステップにする。



### ④シャッター速度設定ステップの選択

内容：シャッター速度のステップを1EVにするか、0.5EVにするかを選択します。

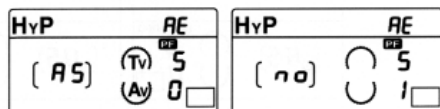
選択肢：0 = 1EVステップにする。  
1 = 0.5EVステップにする。



# ⑤ハイパープログラム時にTvおよびAvの自動シフトの選択

内 容：ハイパープログラム自動露出で使用时、ハイパー機能で設定したシャッター速度または絞り値が連動範囲を超えたときにTv（シャッター速度）あるいはAv（絞り値）を自動的にシフトして適正露出を得るようにするか、シフトしないで警告表示を出す（この場合は適正露出にはなりません）かを選択します。

選択肢：[0]=TvおよびAvを自動的にシフトする。  
[1]=自動シフトをしないで、警告表示をする。



# ⑥ハイパーマニュアル時にIFボタンを押した場合のTv・Av変化の選択

内 容：レンズ絞りを「A位置」にしてハイパーマニュアルを使用時、IFボタンを押して適正露出を得るときの機能を選択します。

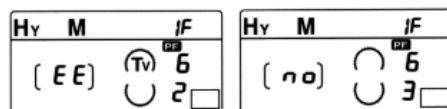
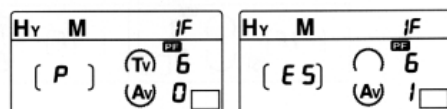
選択肢：[0]=プログラムライン上の適正露出値を得ます。

[1]=Av（絞り値）を固定して、Tv（シャッター速度）をシフトして適正露出を得ます。

[2]=Tv（シャッター速度）を固定して、Av（絞り値）をシフトして適正露出を得ます。

[3]=絞り、シャッター速度ともシフトしない。（IFボタン操作を無効にする）

備考：レンズの絞りリングがA位置以外では、IFボタンを押すと常にシャッター速度だけがシフトします。ただし、選択肢が「3」のときのみIFボタンを押してもシャッター速度はシフトされません。



応用的な使い方

# ⑦ハイパーマニュアル、250（1/250秒）で内蔵および外付けストロボ使用時に、充電完了後IFボタンを押した場合のTv・Av変化の選択

内 容：ハイパーマニュアル、250（1/250秒）で内蔵および外付けストロボ使用時に、充電完了後IFボタンを押したときにTv（シャッター速度）およびAv（絞り）をストロボのプログラムライン上で変化させるか、背景に対して適正露出を得るように変化させるかを選択します。

選択肢：[0]=ストロボのプログラムライン上にシフトします。  
[1]=背景が適正露出になるようにシフトします。



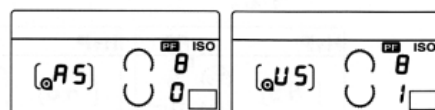
# ⑧フィルムローディング時のフィルム感度設定の選択

内 容：フィルムを入れて、ローディングを行なったときに、フィルムのDXコードにより自動的にフィルム感度の読み込みをするか、しないかを選択します。

選択肢：[0]=DXにより自動的に読み込みを行なう。

[1]=DXにより自動的に読み込みを行なわない。

備考：設定を「1」にした場合には、ISO感度は前回の値がそのままになります。

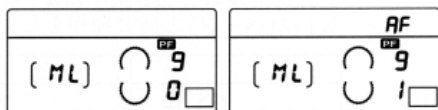


## ⑨ ML ボタンの機能選択

内 容：フォーカスモードレバーが **SINGLE** のとき、**ML** ボタンを押したときに、オートフォーカス作動（合焦後、フォーカスロック）させてから露出値を固定するか、露出値のみ固定するかを選択します。

選択肢：**0** = **ML** ボタンを押すと露出値のみ固定する。

**1** = **ML** ボタンを押すとオートフォーカスが作動し、フォーカスロックすると共に露出値を固定する。

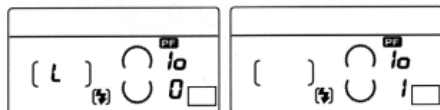


## ⑩ 内蔵ストロボ未充電時のリリース優先順位の選択

内 容：内蔵ストロボが充電する前にシャッターボタンを押し切ったときに、シャッターが切れない（リリースロック）ようにするか、充電前でもシャッターが切れる（リリースできる）ようにするかを選択します。

選択肢：**0** = 内蔵ストロボが充電するまでリリースを禁止する。

**1** = 内蔵ストロボ充電中でもリリースを可能にする。



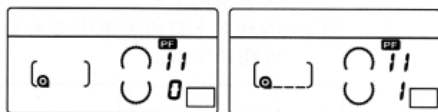
応用的な使い方

## ⑪ フィルム巻き戻し完了時状態の選択

内 容：フィルム巻き戻し完了時に、フィルムのリーダー（先端）部分をバトローネに巻き込むか、若干残すかを選択します。

選択肢：**0** = フィルムを完全にバトローネへ巻き込む。

**1** = フィルムのリーダー部分を若干残す。



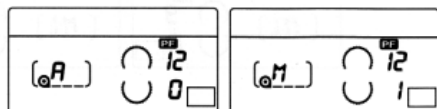
## ⑫ フィルム終了時の機能選択

内 容：フィルムの最後まで撮影したときに、自動的に巻き戻しを行なうか、途中巻き戻しと同様に手動で巻き戻しを開始するかを選択します。

選択肢：**0** = 自動的に巻き戻しを開始する。

**1** = 手動で巻き戻しを開始する。

備 考：**1** に設定した場合、フィルムの最後まで撮り終わると表示パネルの枚数表示とフィルム給送マークが点滅状態になり、フィルムの巻き戻し操作以外はできなくなります。フィルムを巻き戻すには「途中巻き戻し」（21ページ）と同じ操作をします。

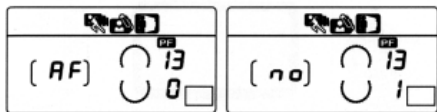


### ⑬パワースーム作動時のピント合わせの選択

内 容：パワースームでズーミングを行ったときにピント合わせを同時に行うか、行わないかを選択します。

選択肢：[0] = ピント合わせを行う。

[1] = ピント合わせは行わない。

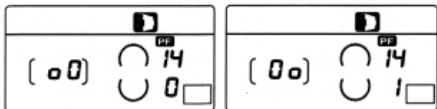


### ⑭露光間ズームモードのズーミング方向の選択

内 容：露光間ズームモードを使用時に、広角側から望遠側にオートズームをするのか、望遠側から広角側にオートズームするのを選択します。

選択肢：[0] = 広角側から望遠側にオートズームする。

[1] = 望遠側から広角側にオートズームする。



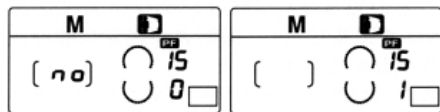
### ⑮露光中のパワースーム作動の選択

内 容：シャッターボタンを押し切って、露光中（シャッターが開いている間）にズームリングを回してパワースームを作動できるようにするか、露光中はパワースームの作動をさせないかを選択します。

選択肢：[0] = 露光中はパワースームの作動を禁止する。

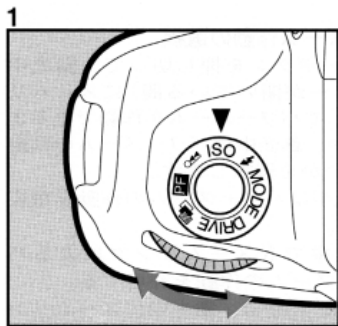
[1] = 露光中でもズームリングによるパワースームの作動を許可する。

備 考：[1]を選択した場合、露光中にズームリングによってパワースームを作動させる場合は、レンズのオートズームスイッチを[P]（一部のレンズでは[PZ]）にしてください。



応用的な使い方

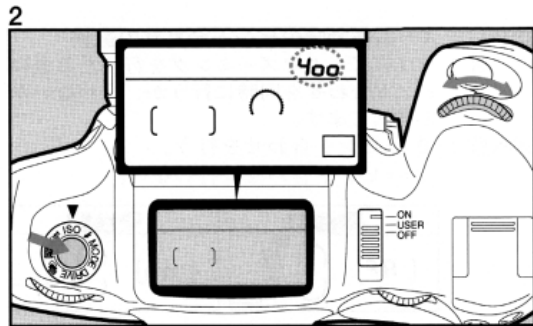
## (16) フィルム感度 (ISO) のマニュアル設定



応用的な使い方

Z-1Pは、フィルムローディング時、フィルムのDXコードにより自動的にフィルム感度を読み取ることができますが（ペンタックスファンクションNO.8で変更可）、撮影者が任意に感度設定をすることができます。

また、DXコードの付いていないフィルムを使う場合はマニュアルでISO感度を設定してください。設定をしないと、前回設定されたISO感度になってしまいます。



### 変更方法

1. モードダイヤルをISOに合わせます。
2. モードセットボタンを押したまま、Tvダイレクトダイヤルを回して希望のISO感度に合わせます。

- \* モードダイヤルをISOに合わせて、モードセットボタンを押すと、現在設定されているフィルム感度（ISO）が表示パネルに表示されます。
- \* DXコードで読み取ったフィルム感度とマニュアル設定したフィルム感度が異なった場合、表示パネルにISOが出て知らせます。

カメラの内蔵ストロボでは光量が不足するときは、外付けストロボを利用してください。(結婚披露宴やパーティーなどで便利です)

TTLオートモード付きストロボを使います。

1. カメラのホットシューカバーを外し、ストロボを取り付けます。
2. ストロボのモードをTTLオートにします。カメラの撮影モードはハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出(電源スイッチがユーザーポジション[USER]の場合のみ)、絞り優先自動露出のいずれかにセットします。
3. ストロボの電源スイッチを入れます。
4. ストロボの充電完了を確認します。ストロボの充電完了ランプが点灯すると、カメラのシャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー内の[ ]が点灯しますので、ファインダーでも充電完了の確認ができます。
5. ピントを合わせて撮影します。

\* 充電が完了すると、周りの明るさによってシャッター速度は、1/250秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただ

し、Aレンズ以前のレンズ使用時は低速限界は1/60秒になります。

- \* カメラの露出モードをシャッター優先自動露出やハイパーマニュアル露出にすると、シャッター速度や絞りを自由に選んで(シャッター優先ではシャッター速度のみ)ストロボ撮影ができますので、ピントの合う範囲を変えたり、ぶれの効果を変えたいときなどにご利用いただけます。
- \* スタジオ用の大型ストロボでは、極性が逆になっている物があります。このタイプでは、Z-1<sub>P</sub>と組み合わせてもストロボが発光しません。詳しくは、ストロボメーカーにご相談ください。また、大型ストロボでは、後幕によるケラレを防ぐため、同調速度より一段低いシャッター速度での使用をお勧めします。

### 外付けストロボの多灯撮影

2個以上の外付けストロボを同時に使用する場合は、112ページのストロボ機能一覧表の同じタイプどうしを組み合わせるか、TYPE BとTYPE CあるいはTYPE DとTYPE Eの組み合わせでお使いください。内蔵ストロボは、どのタイプとでも組み合わせ可能です。

### ストロボ機能一覧

| カメラの機能                                            | TYPE A | TYPE B | TYPE C | TYPE D | TYPE E |
|---------------------------------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度に自動的に切り替わる。                    | ○      | ○      | ○      | ○      | ○      |
| ハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出、シャッター優先自動露出では絞りが自動セットされる。 | ○      | ○      | ○      | ○      |        |
| ファインダー内でオートチェックができる。                              |        | ○      | ○      |        |        |
| TTLオートストロボ撮影ができる。                                 | ○      | ○      | ○      | ○注1    |        |
| ハイパーマニュアル露出、シャッター優先自動露出では低速シンクロができる。              | ○      | ○      | ○      | ○      | ○      |
| AFスポットビームが使える。                                    | ○      | ○      | ○      |        |        |
| 後幕シンクロ撮影ができる。(注2)                                 | ○      | ○      | ○      |        |        |
| 光量比制御モードで撮影できる。(注3)                               |        | ○      |        |        |        |

TYPE A : 内蔵ストロボ

TYPE B : AF330FTZ、AF500FTZ(注4)

TYPE C : AF400FTZ、AF240FT

TYPE D : AF400T、AF280T、AF200T、AF080C、AF140C、AF200SA

TYPE E : AF200S、AF160、AF140

注1 : AF200SAは不可。

注2 : 1/125秒以下になります。

注3 : 1/60秒以下になります。

注4 : マルチストロボ、スレーブ機能が働きます。

### その他のストロボを使用した場合

- \* 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス専用オートストロボの使用をお勧めします。
- \* TYPE D (AF200SAを除く)のストロボで、MS(マニュアルシンクロ)、M(マニュアル)を使うときやTYPE Eのストロボを使うときは、ストロボの計算盤で求めた絞りに合わせて撮影してください。ハイパープログラム、プログラム(電源スイッチがユーザーポジション[USER]の場合のみ)およびシャッター優先自動露出では、絞りが変化してしまいますので使えません。

## AF500FTZ、AF330FTZ

- 周りの明るさによってシャッター速度と絞りが変化しますので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。絞りとシャッター速度の変化に関しては内蔵ストロボと同様です。(89ページ参照)
- 暗くてオートフォーカスの苦手の被写体でも、AFスポットビームを自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- オートズーム機構付きですから、レンズの焦点距離に対応して自動的に照射角度が変化します。(F・F Aレンズのみ)
- スレーブ機能(コードレス)がご利用になれます。(AF500FTZのみ)
- マルチ発光モードがご利用になれます。(AF500FTZのみ)
- 光量比制御モードがご利用になれます。(114ページ参照)
- カメラがハイパープログラム、プログラム自動露出(電源スイッチがユーザーポジション **USER** の場合のみ)、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出であれば、ストロボのモードがマニュアルでも自動的にTTLオートになります。

- 充電完了後およそ3分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの電源が入り充電が再開されます。

## AF240FT、AF400FTZ

- 周りの明るさによってシャッター速度と絞りが変化しますので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。絞りとシャッター速度の変化に関しては内蔵ストロボと同様です。(90ページ参照)
- 暗くてオートフォーカスの苦手の被写体でも、AFスポットビームを自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- カメラがハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出(電源スイッチがユーザーポジション **USER** の場合のみ)、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出であれば、ストロボのモードがマニュアルでも自動的にTTLオートになります。
- 充電完了後およそ5分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの電源が入り充電が再開されます。

## AF200T、AF280T、AF400T

- 明るさによってシャッター速度は、1/250秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、Aレンズ以前のレンズ使用時は、低速限界は1/60秒になります。
- 外光オート(赤・緑・黄位置)で使用すると、絞りがA位置のままでも絞りは下表のように切り替わります。充電が完了すると、シャッター速度も1/250秒~1/60秒に変化します。

|   | AF200T | AF280T | AF400T |
|---|--------|--------|--------|
| 赤 | F 2.8  | F 4    | F 4    |
| 緑 | F 5.6  | F 8    | F 8    |
| 黄 |        |        | F 11   |

(ISO 100の場合)

## ストロボ撮影[使用上]の注意

内蔵ストロボとペンタックス専用の外付けストロボを組み合わせると同時に使用した場合、外付けストロボが後幕シンクロに設定されていれば、内蔵ストロボも後幕シンクロになります。撮影時は、各ストロボの充電の完了を確認してからシャッターを切ってください。

## 光量比制御シンクロ撮影

AF330FTZまたはAF500FTZとカメラの内蔵ストロボを組み合わせることで、二つのストロボの光量の違いを利用した増灯撮影(光量比制御シンクロ撮影)ができます。光量の比率は、内蔵ストロボが1に対して外付けストロボは2になります。

1. AF330FTZ、AF500FTZのシンクロモードを光量比制御モードにします。
2. 両方のストロボの充電完了を確認してから撮影してください。

\* AF330FTZ、AF500FTZをカメラから離してご使用になると、光量比制御の効果が大きくなります。この場合には、別売りアクセサリーのホットシューアダプターF (AF330FTZでは2個)と延長コードF 5Pをご利用ください。なお、ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると、誤動作の原因となるので、使用しないでください。

\* 光量比制御シンクロ撮影では、シャッター速度の上限が1/60秒になる他は先幕シンクロと同様になります。

Z-1Pには、各種専用アクセサリが用意されています。詳しくは、サービス窓口にお問い合わせください。

#### ● ケーブルスイッチ F

Z-1P、MZ-3、MZ-5、MZ-10および645N等に使えるリリースコード。手ぶれ防止やバルブ撮影に使用します。

#### ● マグニファイヤー F B

ファインダー中央部を拡大して見るアクセサリ。

#### ● オートストロボ AF500FTZ

ガイドナンバー 50 の AF スポットビーム内蔵オートズームストロボ。スレーブ機能、マルチ発光、光量比制御モードや先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。

#### ● オートストロボ AF330FTZ

ガイドナンバー 33 の AF スポットビーム内蔵オートズームストロボ。光量比制御モードや先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。

● ホットシューアダプター F、延長コード F 5 P  
AF240FT・AF330FTZ・AF400FTZ・AF500FTZをカメラから離してストロボ撮影するときのアダプターとコード。

#### ● A F アダプター 1.7X

F 2.8より明るい K A・Kマウントレンズでオートフォーカス撮影するためのアダプター。

#### ● マクロストロボ AF140C

ガイドナンバー 14 の接写用ストロボ。

#### ● グリップストラップ F D P

カメラのホールディングを確実にするグリップ。

#### ● レフコンバーター A

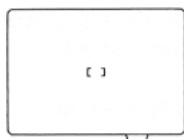
ファインダーを見る角度を90度間隔に変えることができるアクセサリ。倍率は1倍と2倍の切り替え式。

#### ● フィルター

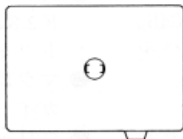
スカイライト・曇天用・UV・Y2・O2・R2・円偏光があります。フィルター径は49mm・52mm・58mm・67mm・77mmの5種類です。

### ● フォーカシングスクリーン

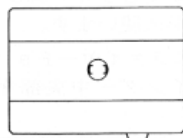
F F-60 (AF フレームマット)  
一般撮影用



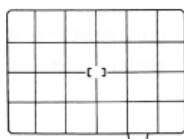
F S-60 (センタースポット)  
スポット測光用フレーム付



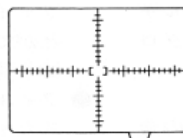
F M-60 (パノラマスポット  
マット)  
パノラマ視野枠、スポット測光  
フレーム付



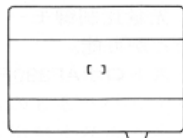
F G-60 (方眼マット)  
構図設定用 (6mm間隔の方眼付)



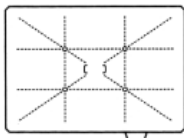
F I-60 (スケールマット)  
フィルム面上の像サイズ設定用  
(1mm目盛のスケール付)



F P-60 (パノラママット)  
パノラマ視野枠付



F K-60 (黄金分割マット)  
構図設定用 (黄金分割点・フレー  
ミングライン付)



## アクセサリーの注意

- 「オートベローズA」を使用する際は、ダブルレリーズが使用できませんので、「ケーブルスイッチF」をお使いください。  
縦位置での撮影は、カメラのグリップ側を下にするとオートベローズAへの取り付けができませんので、グリップ側を上にしてください。  
ただし、この場合にはケーブルスイッチFが使用できなくなりますので、横位置での撮影をお勧めします。
- 「PENTAX-F ★300mm F4.5 ED (IF)」レンズの三脚座を使用してカメラを縦位置にすると、カメラのグリップ側を下にするとレンズの三脚取り付け座がカメラに当たることがありますので、縦位置にするときにはグリップ側を上にしてください。
- 「645レンズ用アダプターK」をボディに装着する際、アダプターの固定ネジの位置によってはボディに当たる場合がありますのでご注意ください。当たる場合は、固定ネジの位置を変えてから行ってください。
- レフレックス1000mm F11や2000mm F13.5レンズをボディに装着する際、レンズの縦横変換ロックネジの位置によってはボディに当たる場合がありますのでご注意ください。当たる場合は、ロックネジの位置を変えてから行ってください。
- 微動装置Ⅲ型やコピースタンドのカメラ取り付け台には、水平出し用の突起部がありますが、Z-1Pでは形状が合わず直接当てるとボディに傷が付くことがありますので使用しないでください。
- オートフォーカス機構の一部にハーフミラーを使用していますので、一般の偏光フィルターを使うとオートフォーカスの精度が低下します。オートフォーカスで使用するときには円偏光フィルターをご利用ください。また、露出の精度も低下しますので、円偏光フィルターの使用をお勧めします。

## MEMO



高速シャッター



低速シャッター

写したい物(被写体)の明るさによって、適正露出を決めることは、シャッター速度と絞り値の組み合わせを決めることです。ところが、被写体が同じ明るさであってもシャッター速度と絞り値の組み合わせはいくつもあり、この組み合わせを選ぶことにより写真の効果を変えることができます。

### シャッター速度の効果

シャッター速度は、光がフィルムに当たっている時間を長くしたり、短くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

シャッター速度が遅ければ、シャッターの開いている時間が長いので、もし、このとき被写体が動いていれば、当然被写体がぶれてしまいます。逆にシャッター速度を速くすると、動きのある被写体でも動きを止めて写すことができます。また、被写体が動いていなくてもシャッター速度を速くすると、シャッターを切るときにカメラが動いてしまうカメラぶれを防ぐ効果もあります。また、川や滝、波などを低速シャッター速度で写すと動感のある写真になります。

応用的な使い方



小絞り側



開放絞り側

### 絞りの効果

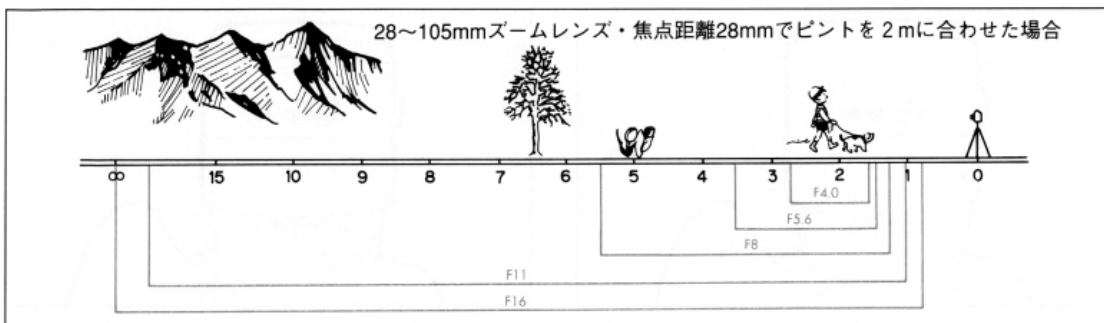
絞りは、レンズを光が通るときの光束(光の太さ)を大きくしたり、狭くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

絞りを開いて光束を広くすると、ピントを合わせた物に対してその前後の物のピントのずれが大きくなります。つまり、ピントの合う範囲(被写界深度)が狭くなります。逆に、絞りを絞って光束を狭くすると、ピントの合う範囲が広がります。

例えば、風景の中で人物を撮影するときに、絞りを開いて撮影すると、ピントを合わせた人物の前後の風景のピントがずれるため、人物だけが浮かび上がる効果があります。

逆に、絞りを絞ると前後の風景にまでピントが合わせることができます。

応用的な使い方



被写体のある部分にピントを合わせると、その前後にもピントが合う範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。

被写界深度(ピントの合う範囲)は、図のように絞りを絞り込むほど深くなりますが、この他にも広角レンズほど、また、被写体が遠くなるほど被写界深度は深くなります。

#### ピントの合う範囲

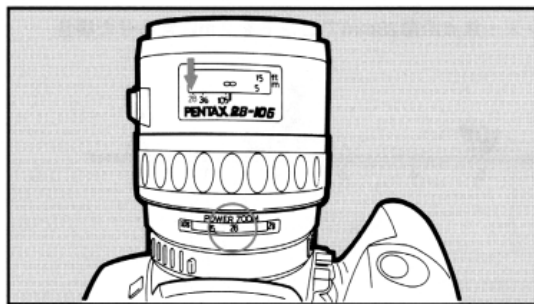
絞りを変えることによってピントの合う範囲(奥行)が変わります。

ズームレンズの被写界深度目盛りは機構上入っていません。

#### プレビューボタンについて

被写界深度は、絞りがA位置以外になっていればプレビューボタンを押すことでファインダー内で確認できます。プレビューボタンを押すとセットした絞り値まで絞りが絞られます。なお、プレビューボタンを押したまま露出を合わせると、正しい露出が得られませんのでご注意ください。

## (22) 赤外線指標について

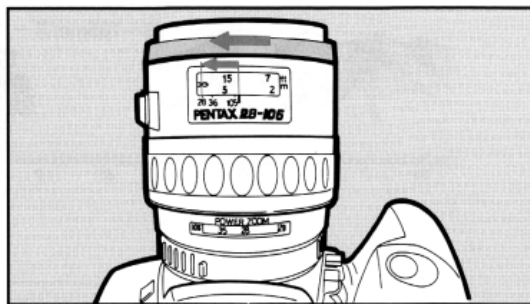


赤外線フィルムと「R2」や「O2」フィルターを使用して赤外線写真を撮影するときは、一般撮影(可視光線)とピント位置が異なってくるため、ピントの補正が必要になります。オートフォーカスでは赤外線写真のピント補正ができません。

#### 補正方法

一度普通にピント合わせをしてから、フォーカスモードレバーを「MANUAL」にし、距離リングを赤外線指標の分だけ左に回して補正します。

図のように、焦点距離目盛りが28のときは、距離目盛りを28の赤外線指標(赤線)までずらします。



\* 赤外線写真を撮影するときの露出は、フィルムの説明書を参考にしてください。自動露出では適正露出が得られませんから、マニュアル露出で撮影します。